

基本目標	伊達市の課題	伊達市の ○強み ・ △弱み		既に取り組んでいる施策 ◎＝地方創生先行型	新たに取り組むべきこと	
		(専門部会意見)	(市民ワークショップ意見)		有識者会議意見	行政経営会議【夏】の意見
基本目標① 働きやすい職場と新しいしごとをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2000年代～リーマンショックにかけて地域の雇用が大きく減少。震災前は有効求人倍率が非常に低く、完全失業率は高かった。</li> <li>●若年世代を中心に非正規雇用の割合が高い。</li> <li>●若年女性の伊達市からの転出傾向が強まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○認定こども園など子どもを預ける環境が多い。</li> <li>○小・中学校（保育園・幼稚園も含めて）の数はある。</li> <li>○子育てのポテンシャルはある。</li> <li>○福島市に近く仙台にもやや近い。</li> <li>○相馬福島道路、復興道路建設などで「浜通り」と「中通り」の拠点地域。</li> <li>○復興道路の開通、首都圏までの時間短縮。</li> <li>○耕作放棄地などを活用した新ビジネスを作る場所としては良い条件下にある。</li> <li>○低価格な広い農地等の土地があり、工場・商業施設の誘致に良い条件下にある。</li> <li>○緑が多く農地が広がっている。</li> <li>○使われなくなった公共施設等の建物があり、低コストで新規事業が展開できる。</li> <li>○光通信網完備（市内全域光ファイバー）</li> <li>○放射能で世界的に有名。（IAEAも知っている）</li> <li>○農産物の生産量及び種類が豊富である</li> <li>○農産物がブランド化されている</li> <li>○豊かな土壌があり更なる発展の可能性がある</li> <li>○女性の就労意欲が高い</li> <li>○観光資源（霊山、伊達氏、各種イベント）が豊富である</li> <li>△働く場所が不足している。（市内に仕事が少ない）</li> <li>△賃金（給与）の高い企業が少ない。（給与金額に魅力がない）</li> <li>△退職まで安心（安定）して働ける企業が少ない。（労働条件に魅力がない）</li> <li>△働きたい職種が企業が少ない。（若い世代に魅力的な雇用の場が少ない）</li> <li>△将来的に大きく成長できるような企業が少ない。（大きな企業が少ない）</li> <li>△県の北部、地理的な場所から狭いエリアでの商業圏。</li> <li>△魅力的な買い物などができる施設が少ない。</li> <li>△便利な方へ生活しやすい方へ人が流れる。特に若い人は便利な方に就職する。</li> <li>△放射能に関する不安感。</li> <li>△高校生の地元離れ（優秀な人材は福島市へ行ってしまう）</li> <li>△市のブランドイメージがない。（昔は、養蚕やメリヤスとかあったのだが…）</li> <li>△山林の荒廃が進んでいる</li> <li>△農業の担い手（後継者）が不足している</li> <li>△風評被害がある</li> <li>△観光資源を生かしていない</li> <li>△公共交通機関の便が悪い（中山間地域）</li> <li>△若年世代の流出がある</li> <li>△元気な高齢者を生かしてきていない</li> <li>△介護施設では人材不足になっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農作物を何でも作れる気候</li> <li>○自然が豊かで四季を通して農業をできる</li> <li>○農業で人手が少ない（働き口がある）</li> <li>○高齢者が多い</li> <li>○旧地区ごとの結束力、お祭りがある</li> <li>○空き店舗がある</li> <li>○都会に比べて人件費が安い</li> <li>○相馬福島道路開通による物流の向上</li> <li>○観光資源を生かした仕事を増せる可能性がある</li> <li>○「原発事故からの奇跡の復活」の舞台となる</li> <li>△安定的な仕事がない</li> <li>△若者が求める仕事がない</li> <li>△仕事の体験施設がない</li> <li>△子供の意識が都会へ向いている</li> <li>△大学、専門学校で学んだことを活かせる会社が地域にない</li> <li>△農業はもうからない</li> <li>△農業をする人が少ない</li> <li>△観光資源を生かしてきていない</li> <li>△企業を誘致できる工業用地がない</li> <li>△都会に比べて給料が安い</li> <li>△支援制度をPRしていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●雇用創出事業</li> <li>●緊急雇用創出事業</li> <li>●高齢者雇用促進事業</li> <li>●企業誘致推進事業</li> <li>◎働きたい女性集まれ！働く女性応援事業</li> <li>◎猪革プロジェクト事業</li> <li>●就農支援事業</li> <li>●農業後継者育成支援事業</li> <li>●6次化産業化推進事業</li> <li>●伊達市農林業振興公社運営支援事業</li> <li>●農業振興支援事業</li> <li>●中小企業制度資金利用促進事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●起業、ベンチャー立ち上げ支援（有識者会議①）</li> <li>●主婦等が時短等で働きやすい職場づくり（有識者会議①②）</li> <li>●地元の木材等を活用した家づくり（有識者会議②）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【林業の活性化】 木材利用推進計画で、林業の活性化及びいづれは林業で生計が成り立つように対策を進める。</li> <li>【農業の法人化】 ●農業で生計を立てるのは難しい。法人設立による雇用創出できる（推測） ●若者が勤務できる生産法人が望ましい。無ければ行政が作るのも手段。</li> <li>【農業の振興】 ●農地の適正規模の明確化 ●農業経営をパターン化することで農業政策が見えてくる。</li> <li>【6次産業化の推進】 ●6次化に向けた視点を進めるべき。</li> <li>【再生可能エネルギーの推進】 ●再生可能エネルギーが必要？林業再生の中でセットで考えるべき。 ●財産区の財産を農林業振興公社に移管し、それを元手に事業を起こす、例えば植林して育て、製材して売却する等。石田地区の若者の雇用創出につながる等新たな展開がある。</li> </ul>
					野村総研の提案	
					<ul style="list-style-type: none"> <li>●50代やリタイアメント世代等を対象とした第二の創業・起業支援</li> <li>●木質バイオマスの活用等による林業活性化</li> </ul>	

## 伊達市地域創生総合戦略 施策パッケージの検討と各種会議意見等

基本目標	伊達市の課題	伊達市の ○強み ・ △弱み		既に取り組んでいる施策 ◎＝地方創生先行型	新たに取り組むべきこと	
		(専門部会意見)	(市民ワークショップ意見)		有識者会議意見	行政経営会議【夏】の意見
基本目標② 新しいひとの流れと賑わいをつくる	●東日本大震災によって交流人口が大きく減少し、現在も回復途上にある。	○子どもの遊べる公園がある、霊山子どもの村がある ○豊かな自然がある ○桜の名所がある ○交流のための地域資源がある ○農作物が豊富 ○ももの里マラソン大会がある ○国道4号が走っている ○JRや阿武隈急行がある ○歴史がある(伊達氏) △レジャー施設が少ない △魅力のある場所が少ない △泊まる場所がない △公共交通の利便性が悪い △お土産がない △地域移住コーディネーターがない △交流の窓口がない △働く場所がない △シティブロモーションが不足している △地域の人たちの意識改革がなされていない △放射能の被害がある △廃校となる学校がある △空き家の活用ができていない	○自然景観の良さ ○山登りができる ○歴史(南北朝の要塞)(伊達氏発祥の地) ○桃の里マラソン ○地域イベントが多い ○農作物が豊か 多種多様な果物 ○農業体験がある(できる) ○相馬福島道路の開通 ○甲子園出場校がある ○保原総合公園に野球場ある ○空き店舗 △交通アクセスが悪い(山間部の交通インフラが悪い) △子育てしにくい △働く場所が少ない(仕事が少ない) △加工品が少ない △地域での役割多い △イベントが多すぎて応援が必要 △部落内にあたらしい人が入った時に馴染みづらい △遊ぶ所が少ない(大型商業施設) △通学が不便 △宿泊する場所が無い △名産品の知名度が低い(PR不足)	●道の駅建設事業 ●霊山高原構想事業 ●田舎体験交流事業 ●観光プロモーション事業 ●観光でにぎわう魅力づくり事業 ●伊達氏ゆかりの史跡整備事業 ●梁川歴史と文化のまちづくり整備事業 ●福島市・相馬市・二本松市・伊達市観光圏整備事業 ●つきだて花工房拠点交流事業 ●やながわ希望の森公園維持管理事業 ◎伊達田園回帰支援事業 ◎ふるさとティーチャリングプロジェクト ●だての魅力発見・第二のふるさとづくり事業 ●生き活き集落づくり事業 ●空き家対策事業	●Uターン、Iターン向けの情報提供・伊達の魅力伝達 (有識者会議①②) ●健康な高齢者向け移住支援(健康都市づくりと併せた推進) (有識者会議②) ●桃の里マラソン大会等を活かした宿泊体制(農家民泊等)の整備 (有識者会議②)	【商工業の充実】 ●「商工業の充実」は根幹となるべき項目、若者の流出抑制や雇用の創出につながるべき。  【空き家空き店舗対策】 ●空き店舗は、健康都市のモデル地区である掛田地区での展開を進める。 ●空き家対策に関連して、農業に就きたい人に対する斡旋により、農村の活性化につながると考えている。(詳細はこれから)  【歴史・観光】 ●伊達氏だけでなく、北畠公も関連付けた情報発信の方法が必要。 ●誘客するためには、土産物や食べ物の開拓も必要。 ●観光に力を入れるべき。土産のコンクールを開催して“伊達のもの”を作り出す。
					野村総研の提案	
					●道の駅を活用した移住支援センターでの情報提供、空き家の活用推進 ●移住者のコミュニティ形成支援 ●高速道路を活用したにぎわい拠点整備	

## 伊達市地域創生総合戦略 施策パッケージの検討と各種会議意見等

基本目標	伊達市の課題	伊達市の ○強み ・ △弱み		既に取り組んでいる施策 ◎＝地方創生先行型	新たに取り組むべきこと	
		(専門部会意見)	(市民ワークショップ意見)		有識者会議意見	行政経営会議【夏】の意見
基本目標③ 子育てしやすい、ふるさとの魅力を実感できる地域をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●福島県内で最低水準の出生率にとどまっている。</li> <li>●若い世代ほど、未婚率が高まる傾向がある。</li> <li>●若年女性の伊達市からの転出傾向が強まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て資源が充実し、特に乳幼児期の環境が整っている。</li> <li>○各地域に子育て支援拠点（子育て支援センター、子育て相談センター）が整備され、身近な相談の場がある。</li> <li>○認定こども園、屋内遊び場が整備されつつある。</li> <li>○子育て支援ヘルパーや第3子に対する出産一時金など、子育て支援の施策が進められている。</li> <li>○妊産期からの健康管理が充実している。</li> <li>○聖光学院高校という全国的な知名度の学校があり、関西などからの生徒の誘致が期待できる。</li> <li>△働く場が少ない。</li> <li>△若者の交流の場が少ない。（大規模イベントホール、婚活イベント等）</li> <li>△公共交通機関が不十分であり、通学の利便性が低い。</li> <li>△住宅を建てる場が少ない。（市街化区域、市街化調整区域の問題）</li> <li>△教育レベル（学力）が低い。</li> <li>△支援・サービス・相談・保健の総合的な対応※子育てのキャッチフレーズを考えてが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都会よりは土地が安い</li> <li>○相馬福島道路が開通する</li> <li>○人情味ゆたか</li> <li>○各地域のおまつりがりっぱである</li> <li>○自然を活かしたスポーツがある（ポルダリング）</li> <li>○桃の里マラソン大会</li> <li>○おいしい果物がある</li> <li>○歴史・史跡がある</li> <li>△市街化調整区域ばかり（宅地がない）（農地が多い）</li> <li>△働く場所が少ない 工業団地の整備</li> <li>△伊達市のうりが無い</li> <li>△一つの自治体としての一体感がない</li> <li>△地域の特徴が明確でない</li> <li>△人が集まる場所が少ない（大型商業施設）</li> <li>△安い市営住宅がない</li> <li>△親（義父母）と一緒に住みたくない</li> <li>△独居老人が多い</li> <li>△子供を育てづらい</li> <li>△特徴のある教育がほしい（子供を育てたくなる教育）</li> <li>△住めない空き家が多い</li> <li>△伊達市らしい祭りない</li> <li>△公共施設が充実していない</li> <li>△山間部の交通が悪い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●だて婚活支援事業</li> <li>●認定こども園整備事業（月館、梁川、伊達）</li> <li>●ことばの教室運営事業</li> <li>●こども医療費助成事業</li> <li>●こども体力低下対策事業</li> <li>●こども遊び場整備事業</li> <li>●ひとり親家庭医療費助成事業</li> <li>●伊達市産前産後子育て支援ヘルパー支援事業</li> <li>●伊達市奨学資金貸付事業</li> <li>●育児サークル支援事業</li> <li>●家庭教育支援事業</li> <li>●教育相談事業</li> <li>●月館保育園運営維持管理事業</li> <li>●子ども・子育て支援事業</li> <li>●子育てガイドブック作成事業</li> <li>●子育て世帯臨時特例給付金給付事業</li> <li>●私立保育園補助金交付事業</li> <li>●幼稚園管理運営事務、私立幼稚園運営費負担金事務</li> <li>●児童虐待等相談事業</li> <li>●児童手当給付事業</li> <li>●出産祝い金支給事業</li> <li>●小学校施設整備事業</li> <li>●障がい児通所支援事業</li> <li>●男女共同参画推進事業</li> <li>●地域子育て支援事業（子育て支援センター運営委託事業）</li> <li>●特別支援教育推進事業</li> <li>●乳幼児健康診査事業</li> <li>●妊婦健康診査事業</li> <li>●妊婦歯科検診事業</li> <li>●認可外保育補助金交付事業</li> <li>●保育所運営費負担金事務</li> <li>●保原保育園運営維持管理事業</li> <li>●母子家庭等自立支援給付金事業</li> <li>●母子健康相談・健康教育事業</li> <li>●放課後支援事業</li> <li>●放課後児童健全育成事業</li> <li>●未熟児・新生児（母子）訪問指導事業</li> <li>●未熟児養育医療事業</li> <li>●民営放課後児童クラブ活動支援事業</li> <li>●幼児発達支援事業</li> <li>●幼稚園遠距離通学支援事業</li> <li>●幼稚園就園奨励費支援事業</li> <li>●幼稚園預かり保育事業</li> <li>●霊山児童館管理運営事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもがのびのび育つ居場所づくり（有識者会議①）</li> <li>●不妊治療へのサポート（有識者会議①）</li> <li>●地域のよさ、魅力を継承・発展するふるさと教育の推進（有識者会議②）</li> <li>●シングルマザーにやさしいまちづくり（有識者会議②）</li> <li>●男性の育児休暇の取得推進（市が率先）（有識者会議②）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【受け皿整備による人口動態分析】</li> <li>●受け皿整備等により、少子化に歯止めをかけ、歯止めがからなくとも、転入による人口減がなからかであったり、転入増につながったりとプラス効果はあったのかの分析が必要。</li> <li>【母子保健との連携による少子化対策】</li> <li>●母子保健の充実と連携を図りながら、少子化対策を進めること。</li> <li>【ネウボラを参考とした環境づくり】</li> <li>●ネウボラはいい。ただ新しい取り組みでない。子どもを増やす、産み育てやすい環境づくりで、市に欠けていることを盛り込むことが必要。</li> <li>【住宅優遇策】</li> <li>●高子北地区団地開発は、保育機能だけでは若者は集まらない。住宅取得に係る優遇措置等インセンティブが必要。</li> </ul>
<b>野村総研の提案</b>					<ul style="list-style-type: none"> <li>●多世代同居・近居やシェアハウス等、子育てしやすい住宅環境づくり</li> <li>●学童保育等、放課後での子育て支援の充実</li> <li>●近隣大学、高校と地元企業が連携した製造業・IT産業で活躍する人材の育成</li> </ul>	

基本目標	伊達市の課題	伊達市の ○強み ・ △弱み		既に取り組んでいる施策 ◎＝地方創生先行型	新たに取り組むべきこと	
		(専門部会意見)	(市民ワークショップ意見)		有識者会議意見	行政経営会議【夏】の意見
基本目標④ 生涯にわたって健康で生きがいをもって暮らす「健康都市」をつくる	●市内の中山間地域での過疎化と人口減少が進んでいる。	○地域のつながり（自治会・防災組織など）がしっかりしている ○事件、事故が少ない ○地域の資源が豊富 ○歴史や文化的財産がたくさんある ○農産物がたくさんある ○市街地等への移動がしやすい ○仙台、福島、郡山への移動が容易 ○ロケーションが良い ○子育ての環境が充実している ○健康な高齢者が多い ○JR、阿武隈急行が通っている。 ○合併の経験があり、各地域で施設等が整っている。 ○宮城県と接しているため、他県民との交流や観光客・買物客が来やすい。 ○県内では大規模な市（福島市）に接している。 ○まだ固まったイメージがないので、今後、理想とするイメージをつけやすい。 △空き家の増加 △市内の交通の便が悪い △医療機関等の不足（病院、介護、各種施設、システムなど） △年寄りが強すぎる △大学がない △働く場が少ない（商店、各種企業など） △少子高齢と人口減少 △地域犯罪の増加（市内の特定地域が増えている） △耕作放棄地（遊休農地）の増加 △核となる都市部がない。 △道路の狭いところがまだ多数ある。 △市街化調整区域があり開発制限を受ける。 △「伊達市」が全国的にあまり知られていない。	基本目標③と共通	●健康都市推進事業 ●ウェルネスコミュニティ形成事業 ●掛田地区道路整備事業 ●健康都市白根地区モデル事業 ●健康都市掛田地区コミュニティ道路整備事業 ●健康都市掛田地区ポケットパーク・駐車場整備事業 ●健康都市掛田地区市道整備事業 ●健康都市都市再生整備計画提案事業 ●健康都市歩きたくなる公園整備事業 ●蓋山中央交流館改修事業 ●月館まちづくり環境整備事業 ●健康運動習慣化支援事業 ●健康増進室事業 ●スポーツ振興事業 ◎伊達市総合戦略策定事業 ●市町村代替バス運行事業 ●新多目的交通システム事業 ●地方バス路線運行事業 ●地域自治組織推進事業 ●市民活動支援センター事業 ●学校支援地域連携推進事業 ●生涯学習ボランティア活動支援センター運営事業 ●福島大学連携・協働事業 ●高子駅北地区住宅団地整備事業 ●優れた街並み景観形成支援事業 ●地域ケア会議活用推進等事業 ●中1福祉施設ボランティア事業 ●保原総合公園拡張整備事業 ●地域づくり支援事業（各総合支所）	●放射性物質関連の情報提供の充実（有識者会議②） ●産科・小児科医療体制の充実（有識者会議②）	【防災と福祉の連携】 ●地域を推進する際の大事なことは、「防災」と「福祉」の関連が必要。  【空き家対策の推進】 ●空き家対策については利活用と撤去がある。平成28年度に向けて重点的に推進すべき。  【コンパクトシティの推進】 ●道路の維持修繕の考え方の整理が必要である。コンパクトシティの推進。
					野村総研の提案 ●IT等の活用による遠隔医療体制の拡充 ●幼老複合施設における多世代交流の推進	